

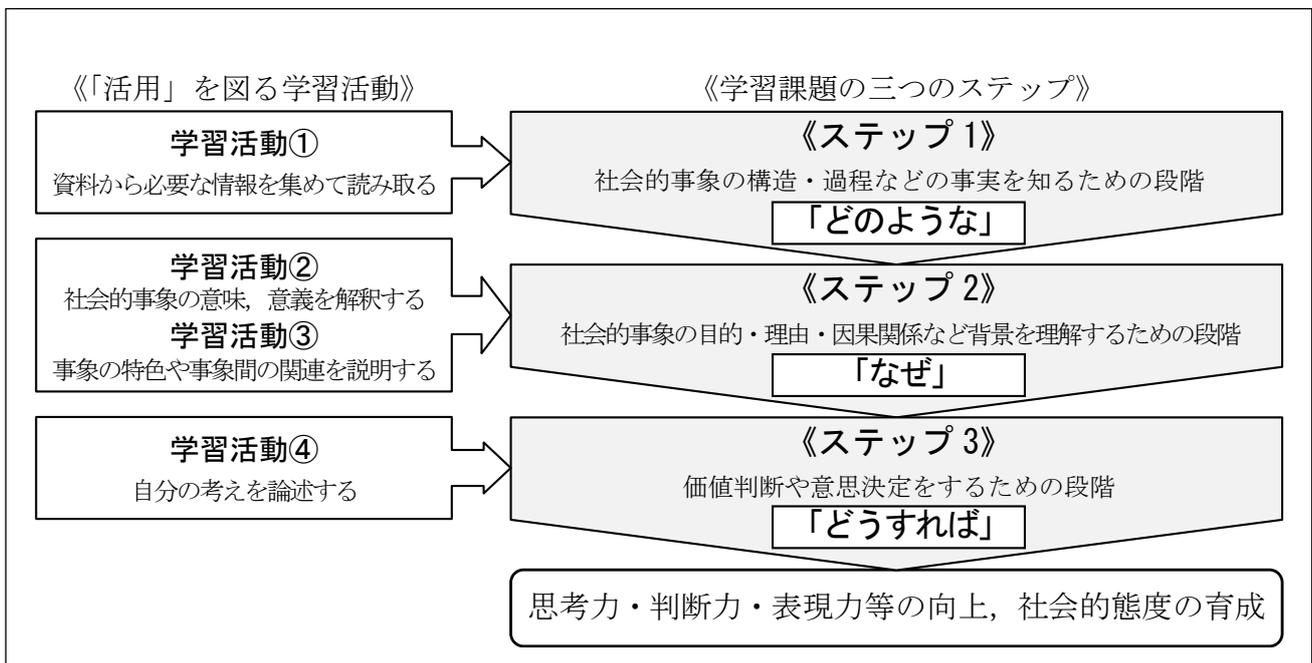
3. 学習課題の三つのステップ

(1) 「活用」を図る学習活動に対応した学習課題の三つのステップ

課題解決学習を充実させるためには、「活用」を図る学習活動にどのように取り組むかが重要です。課題解決学習の方向性は、どのような学習課題を設定するかによって左右されるといえます。つまり、「活用」を図る四つの学習活動に対応した学習課題を設定し、取り組むことができるかどうか鍵になります。

下に示した図は、「活用」を図る学習活動の展開に応じて設定される学習課題について、三つのステップにまとめて整理したものです。

< 「活用」を図る学習活動に対応した学習課題の三つのステップ >



◇ステップ1◇

学習活動①に対応するステップ1は、社会的事象を事実として知るための段階です。その社会的事象に関わる様々な情報を収集するために、「どのような」と問います。

◇ステップ2◇

学習活動②と③に対応するステップ2は、社会的事象について、どのような目的で行われたのかという背景や、他の社会的事象とどのように関わっているのかという背後にある因果関係を見つけ理解するための段階です。そこで「なぜ」と問います。

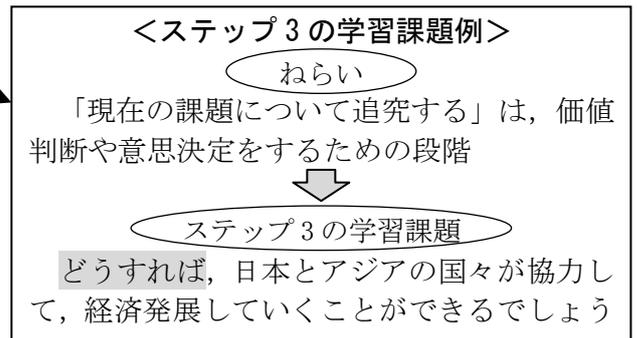
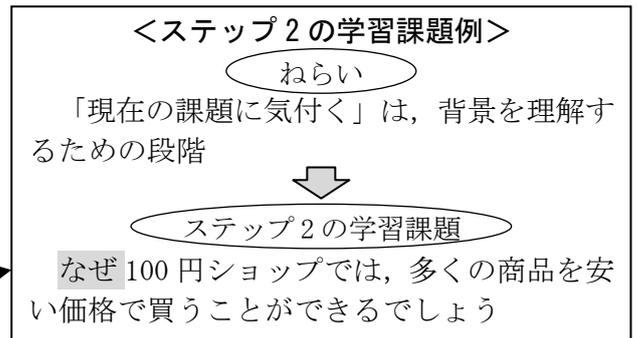
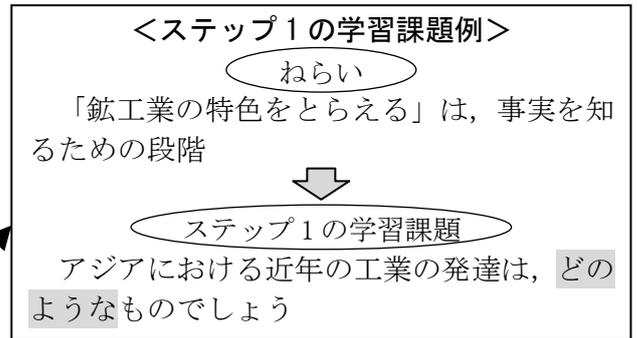
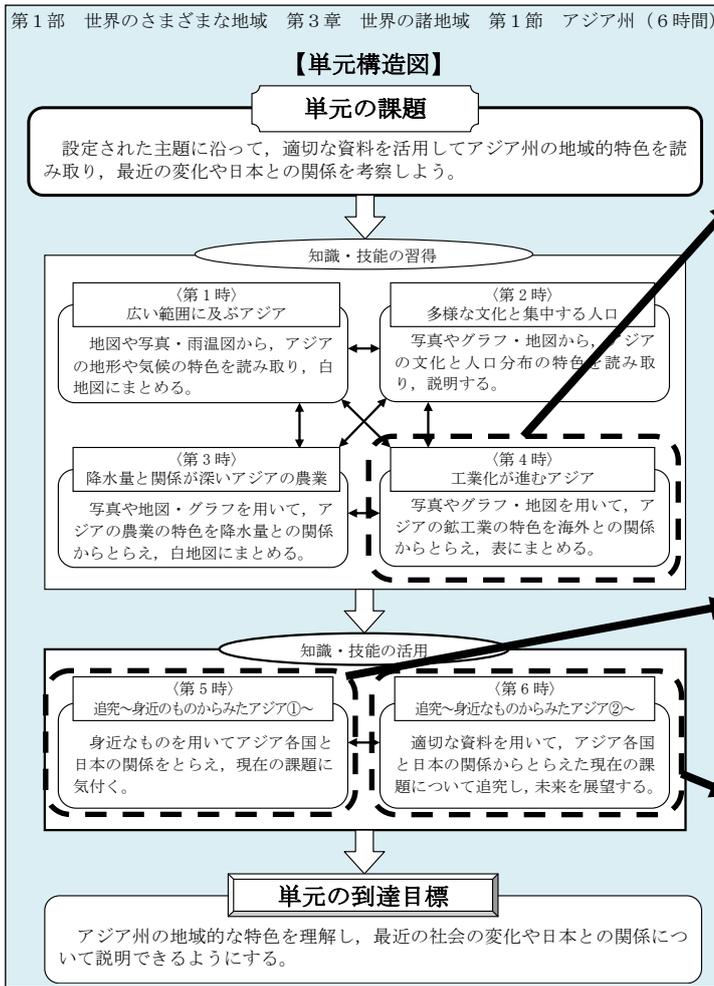
◇ステップ3◇

学習活動④に対応するステップ3は、社会的事象の中に存在する課題について、より望ましい解決策を選ぶために価値判断・意思決定する段階です。そこで「どうすれば」と問います。

ここに挙げた「どのような」「なぜ」「どうすれば」は、代表的な形です。このほかにも、「何が」「どのように」「どちらが」「もし～ならば」などといった学習課題の形も考えられます。

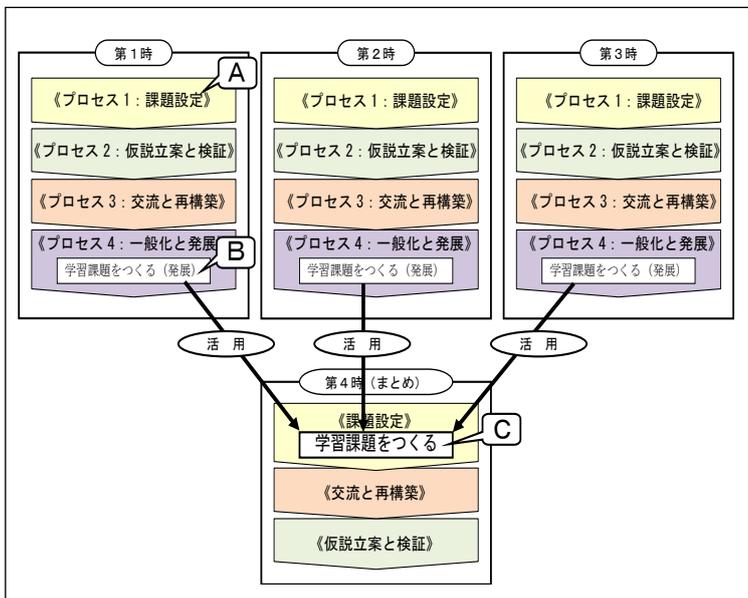
(2) 学習課題の設定例

ここでは、ステップ1から3の学習課題の設定について紹介します。例として挙げたのは、第1学年地理的分野「アジア州」です。単元構造図に示した各単位時間のねらいに沿って、その時間に行う学習活動を具体的に考え、学習課題を設定します。



(3) 学習課題設定の流れ

<単元における学習課題設定の流れ(4時間扱いの例)>



設定場面A

教師が、ステップ1やステップ2の学習課題を設定し、提示します。

設定場面B

授業の振り返りで新たに生まれた疑問を基に、生徒が学習課題をつくります。

設定場面C

設定場面Bでつくった学習課題や既習事項、資料の情報を参考にして、授業のねらいに沿って生徒がステップ3の学習課題を設定します。その後グループで交流し、多面的・多角的に考えることができるような、質の高い学習課題にします。